

### 第七節 「ドラゴール」法關係

二七二 明治四年七月八日 在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛（電報）

「ドラゴール」主義ニ関スル米國ノ提案報告ノ件

七月八日 前二一、一五 海牙發  
七月九日 〃八、〇七 本省着

林外務大臣宛

都筑大使

第四九号

ドラゴール主義ニ関スル米國案

一國ノ臣民又ハ人民ニ対シ他國ノ政府力カ支払フヘキ契約上ノ債務ヨリ生スル純然タル金錢上ノ原因ニ基ク武力的衝突ヲ國家間ニ惹起スコトヲ避ケムカ為並斯ル性質ヲ有スル一切ノ契約上ノ債務ニシテ外交手續ニ依リ協議的ニ決定スルヲ得サルトキハ之ヲ仲裁裁判ニ付スルカ為斯ル契約上ノ債務ノ履行要求ノ為ニ陸海軍ノ兵力ヲ使用スルカ如キ一切ノ強制的手段ニ訴フルコトハ債權者ヨリ仲裁裁判ニ付スルノ申出ヲナシ債務國之ヲ拒絕スルカ若ハ之ニ対スル回答ヲ為ササル場合、仲裁裁判力行ハレサル場合又ハ債務國力仲裁

裁判ニ依リ下サレタル判決ニ從ハサル場合ニアラサレハ之ヲ為ササルヘキコトヲ約ス又該仲裁裁判所ハ千八百九十九年ノ國際紛争平和的処理條約第三章ノ手續ニ遵フヘク而シテ債務ノ当否及其額並之カ弁済ノ時期及其方法若シ必要アレハ弁済期間中立ツヘキ保証ハ該仲裁裁判ニ於テ決定セラルヘキコトヲ約ス

二七三 明治四年七月十日 在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛（電報）

「ドラゴール」主義ニ対スル列國ノ態度報告並右

ニ関スル我邦ノ態度ニ付請訓ノ件

七月十日 後四、二五 海牙發  
七月十一日 前九、一〇 本省着

林外務大臣宛

都筑大使

第五四号

ドラゴール主義ニ関スル米國ノ提案ニ於テハ契約ノ履行ヲ強

第一九号

貴電第五四号ニ関シ他ノ列國皆賛成スルニ於テハ貴官ニ於テモ同意セラレ差支ナシ

二七五 明治四年八月三日 在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛（電報）

「ドラゴール」主義修正案ニ対スル態度ニ付

請訓ノ件

八月三十一日 前一〇、二〇 海牙發  
九月一日 前七、〇五 東京着

林外務大臣

都筑大使

第一一四号

貴電第一九号ニ関シ

曩ニ電報セシ米國案ハ別電第一一五号ノ通り修正セラレ會議ニ附セラルベシ右ニ関シテハ多少ノ留保ヲナス小國少カラザレドモ重ナル諸國賛成スル上ハ本官ニ於テモ同意スル様致シタシ、右ニテ御差支ナキヤ折返シ電報ヲ請フ

制スルニ先テ之ヲ仲裁ニ付スルコトヲ以テ義務トナセリ（尙詳細ノ点ハ往電第四九号ヲ参照セヨ）而シテ列國ハ多クハ之ニ賛成セントスルノ模様アリ彼ノ独逸ノ如キハ平生義務的仲裁ニ対シ強硬ナル反対ノ態度ヲ示スニ拘ラス本件ニ賛成セントセリ本官等ハ義務的仲裁ニ対シ十分ニ反対ノ理由ヲ説明シ得ヘキモ若シ本件ニ関シ獨リ帝國ノミ反対スルニ於テハ將來清國ニ投資スルニ際シ我ニ取リ不利益ナル影響ヲ發生スルノ虞ナキヤ何トナレハ清國ニ於テハ將來外資ヲ輸入スルニ當リ自ラ義務的仲裁ヲ保障スル國ニ依頼スヘクレハナリ將又本件ハ帝國ニ取リ全ク理論的問題ニ過サレハ強ヒテ之ニ対シ單獨ニ反対ヲ唱フルノ必要アリヤ右ニ付至急電訓ヲ請フ

二七四 明治四年七月三日 林外務大臣ヨリ  
在海牙都筑大使宛（電報）

「ドラゴール」主義ニ関スル米國ノ提案ニ対シ我

邦ノ意向回訓ノ件

七月十三日 後一、三〇發

都筑大使

林外務大臣

二七六 明治四年八月三日 在海牙都筑大使ヨリ

林外務大臣宛(電報)

「ドラゴール」主義修正案報告ノ件

八月三十一日 前一一、一五 海牙發  
九月一日 前一二、〇〇 東京着

林外務大臣

都筑大使

(訳文)

第一一五号

自国民ニ支払ハルヘキモノトシテ他国ノ政府ニ対シ要求セラレタル契約上ノ債務ヨリ生スル純然タル金銭上ノ原因ニ基ク武力的衝突ヲ国家間ニ惹起スコトヲ避ケムカ為記名国ハ斯ル契約上ノ債務ノ償還ノ為メニ兵力ニ訴ヘサルコトヲ約ス然レトモ本規定ハ債務国カ仲裁裁判ニ付スルノ申出ヲ拒絶スルカ若ハ之ニ対スル回答ヲ為ササルトキ又ハ之ヲ承諾シタルトキト雖モ仲裁契約ノ成立ヲ不能ナラシメタルトキ又ハ仲裁裁判アリタル後ト雖モ該仲裁裁判ノ判決ニ従ハサルトキハ之カ適用ナキモノトス右ノ外記名国ハ上記仲裁裁判ハ海牙ニ於テ採用セラレタル国際紛争平和的処理條

約第三章ノ手續ニ従フヘキコト及該仲裁裁判ハ当事国ノ一致セサル限債務ノ当否及其ノ額並之カ弁済ノ時期及其ノ方法ヲ決定スヘキモノタルコトヲ約ス

二七七 明治四年九月三日

林外務大臣ヨリ  
在海牙都筑大使宛(電報)

「ドラゴール」主義修正案ニ対スル帝國政府ノ意向  
回訓ノ件

九月三日 午後五時二十五分發

都筑大使

林 外 相

第三五号

貴電第一一四号ニ関シ諸大國皆賛成スルニ於テハ貴官モ同意セラレ差支ナシ

註 本件ハ十月十六日総会ニテ可決サル

### 第八節 陸 軍 関 係

二七八 明治四年七月六日

在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛(電報)

陸戦ノ法規改正ニ関スル埃、丁、米三国ノ提案  
要領報告ノ件

七月十八日 前一一、二五 海牙發  
七月十九日 前七、二八 本省着

林外務大臣宛

都筑大使

第六八号

議案要領

陸戦法規改正ニ関シ埃太利ヨリ五十三條二項鐵道材料以下二十八字ヲ鐵道材料電信電話汽船其他ノ船舶諸種ノ車輛等陸上海上及空中ニ於テ自由ニ物件及ヒ音信ヲ輸送スヘキ一切ノ交通機關ニ改ムルノ議案ヲ提出シ丁抹ヨリ占領地又ハ敵地ヨリ中立国ニ通スル海底電線ハ最大必要アルニアラザレバ没収破壊スルコトヲ得ス若シ之ヲナシタルトキハ平和回復ノ際返還補償ヲナスヘキノ議案ヲ提出セリ又米國ヨリ爆裂彈丸ノ如キ無益ニ慘酷ナル所為ヲ被ラシムル彈丸

第六章 會議ノ進行、陸軍關係 二七八 二七九

及ヒ戰鬪員ヲ即時戰鬪外ニ置クニ必要ナル限界ヲ超過スル一切ノ彈丸ヲ使用スルコトヲ禁ストノ議案ヲ提出セリ

註 右丁抹提出ノ海底電線ニ関スル追加案ハ八月一日ノ第二委員会ニ於テ可決サル後掲海軍關係三一〇文書參看

二七九 明治四年七月二十四日

在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛(電報)

第二委員会ニ於テ陸戦法規修正案通過ノ件

七月二十四日 後九、〇〇 海牙發  
七月二十五日 後二、二五 本省着

林外務大臣宛

都筑大使

第七七号

本日第二委員会ノ第二分科会ニ於テ陸戦ニ関スル條約第十七條左ノ通り改正セラレタリ

「俘虜將校ハ捕獲國ニ於ケル相当將校ト同額ノ給与ヲ受ク